

令和2年第3回北海道議会定例会 予算特別委員会（経済部審査） 開催状況（経済部観光局）

開催年月日 令和2年9月29日
 質問者 日本共産党 菊地 葉子 委員
 答弁者 観光振興監、観光局長、誘客担当局長
 観光局参事（匂坂、佐々木）

質問要旨	答弁要旨
<p>二 観光政策等について (一) どうみん割について 1 どうみん割の実績評価について (菊地委員) 第2弾のどうみん割ぷらすを発表したところですが、第1弾のどうみん割について、実績がどのようになったのか、どうみん割の適用を受けた事業者がいくつあるのか。実施にあたっては混乱もあったようだが、道としてどのように評価をしているのか伺います。</p> <p>[再質問] 1 どうみん割の実績評価について (菊地委員) どうみん割で一番恩恵を受けているのは大手の事業者が中心であり、インバウンド消失の影響の穴埋めを道がしているだけではないのか、こういう批判もありましたが、今後、インバウンドに頼らない北海道観光を考えたときに、細やかなホスピタリティでリピーターを生み出すような取組をしている中小・小規模事業者に対しての支援を強化していく必要があると考えるがいかがか伺います。</p>	<p>(観光局参事（匂坂）) どうみん割の実績などについてでございますが、どうみん割の実績額は、7月から8月末までの2か月間で約12億円、対象事業者は、8月末現在で1,471事業者となっているところでございます。</p> <p>どうみん割につきましては、本道観光のハイシーズンである7月、8月をピークとする夏の観光需要を取り込むことによって観光関連産業の回復を図るとともに、当初、8月中下旬と想定されておりました国のGo To トラベルにつなげていくことを目指しまして、準備を進めてきたところであり、販売日の延期という事態は発生したものの、当初の予定どおり7月1日から事業を開始することができたところでございます。</p> <p>その後、国は、Go To トラベルの開始予定日を7月22日に大幅に前倒ししたことから、「どうみん割」から切れ目なくつなげることができたものと考えているところでございます。</p> <p>(誘客担当局長) 小規模事業者への支援についてでございますが、ペンションや民宿をはじめとする小規模事業者には、「家庭的なおもてなし」や「心のふれあい」といったそうした宿泊施設ならではの魅力があふれているところも多く、本道観光にとりまして大切な担い手であると認識をしております。どうみん割では1泊6千円未満の商品につきましては対象としておりませんが、どうみん割ぷらすでは、道議会でのご議論も踏まえ、小規模事業者支援の観点から、3千円以上の商品を新たに加える方向で検討しているところでございます。</p> <p>道といたしましては、今後、秋冬の本道観光の魅力の戦略的な情報発信を行うとともに、国のGo To トラベル事業も効果的に活用しながら、小規模事業者への支援も含め、本道の観光需要喚起に向け、取り組んでまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(二) カジノ誘致断念の判断について</p> <p>1 カジノをめぐる事件の受け止めについて (菊地委員)</p> <p>道はこれまでインバウンド需要を取り込むため、カジノを含むIRの誘致に取り組んできました。我が会派としては、賭博であるカジノによって、ギャンブル依存症や多重債務、自殺、反社会的勢力の関与や治安の悪化などを指摘して、人命にも関わる社会問題として大変懸念があり、反対を表明してきました。</p> <p>北海道へのカジノを含むIRの誘致を舞台に、日本参入をめざす中国企業側から賄賂を受け取ったとするIR担当だった元内閣府副大臣、秋元司衆議院議員が逮捕され、その後、証人買収事件まで発覚しており、先週25日には、加森観光の前会長が贈賄の罪で有罪判決が言い渡されました。こうした事件について、積極的に誘致を進めてきた道は、どのように受け止めているのか、まず伺います。</p> <p>2 パンデミックとカジノの需要見通しについて (菊地委員)</p> <p>新型コロナウイルスによるパンデミックの影響で、世界のカジノが閉鎖され、有力海外事業者も財務状況が悪化して、日本での開業に意欲を示していたラスベガス・サンズは撤退したと報道されています。海外のカジノは、再開後も入場制限などで客足は戻っていないといえます。</p> <p>また、カジノはオンラインにシフトし、インターネットを通じた会議やビジネスが進めば、カジノに併設される宿泊施設にとっても、国際会議などの需要は先細るのではないかと考えます。</p> <p>道は、カジノを含むIRに関し、今後の需要をどのように見通しているのか伺います。</p> <p>3 カジノ事業の先行きについて (菊地委員)</p> <p>国は、基本方針に事業者との接触を制限する規定や感染症対策を加える方向で検討し、今も公表時期は「決まっていない」ということであり、先行きは全く不透明です。</p> <p>道が応募を期待する第二次募集も、いつになるかわからないと考えますが、事業の先行きをどう見ているのか伺います。</p> <p>4 誘致希望自治体の動向について (菊地委員)</p> <p>カジノを含むIRの誘致を希望する道内自治体の動向については、どの様な認識でしょうか、伺います。</p>	<p>(誘客担当局長)</p> <p>IRを巡る事件についてでございますが、本道の観光会社の前会長でございます加森氏に対しまして、先週、有罪判決が言い渡されたところでございますが、IRを巡る他の事件につきましては、現在、刑事裁判の係属中であり、その推移を注視しているところでございます。</p> <p>道といたしましては、IRも含め民間事業者による大規模施設などの誘致にあたりましては、公平かつ公正な事業者への対応が強く求められているものと認識をしております。</p> <p>(観光局参事(佐々木))</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響についてでございますが、9月3日開催のカジノ管理委員会で報告されました「最近の主な諸外国のカジノ施設の状況」によりますと、2月から4月に、世界各国でカジノ施設の営業を停止し、その後、施設及び、従業員や顧客に対する感染防止対策の徹底のほか、ゲーミングエリアの収容人数の制限を設けた上で、マカオでは、2月下旬から、米国やシンガポールにおいては、6月から7月にかけて順次、営業を再開しているところでありますが、多くの施設で、前年度の売り上げを下回っている状況にあると承知してございます。</p> <p>道といたしましては、諸外国における新型コロナウイルス感染症の状況はもとより、各国におけるIRに関する需要動向など、今後の推移を注視してまいりたいと考えてございます。</p> <p>(観光局参事(佐々木))</p> <p>国の動きについてでございますが、昨年、国が公表しました「特定複合観光施設区域の整備のための基本的な方針案」には、IRの区域認定に係るプロセスや審査基準のほか、自治体の認定申請期間などが示されているところでございます。</p> <p>現在、国においては、基本方針の決定に向けまして、カジノ管理委員会におけるギャンブル等依存症対策の充実、感染症対策を含むIR施設の安全の確保に関する議論や、自治体の取組状況を把握するなど検討を進めているものと承知してございますが、公表及び決定の時期につきましては、明らかにされておらず、道といたしましては、引き続き、国の動向の把握に努めてまいりたいと考えてございます。</p> <p>(観光局参事(佐々木))</p> <p>道内自治体の動向についてでございますが、苫小牧市においては、観光産業を政策の主軸に、環境と共生した国際リゾート構想の実現に向け、IR誘致へのチャレンジを継続していくこととしており、動植物等の現況と保全策を盛り込んだ環境影響評価調査をとりまとめ、本年6月に公表したところでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>5 インバウンドの回復の見通しと方針転換の必要性について (菊地委員) カジノ誘致の前提は、インバウンドの増加であり、中国などの富裕層をターゲットとしていたが、これも先行きは不透明です。自由往来は何年先になるのか、見通せないのではないか。いかがか伺います。</p> <p>6 インバウンド頼みの観光振興の見直しについて (菊地委員) これまでも幾度となく道内観光による内需型観光を求めてきました。8割を占める道内・国内観光客の利用を大切に、インバウンド頼みの観光振興方針を転換していく必要が今だと思うのですが、必要について伺います。</p> <p>7 コロナ対策に関する組織と予算への傾注について (菊地委員) コロナ対策とその影響からの脱却に向け、今は全力をそこに傾注すべきであって、カジノ誘致にいつまでも人員を配置し、予算を付けること、このことについては早急に決断すべきではないかと考えます。 道はどのような見通しの下で、今後の判断をしようとするのか。いつまでカジノにしがみつこうとするのかお伺いいたします。</p> <p>(菊地委員) インバウンドに頼り切ってきた観光が今の北海道の経済状況を引き起こしていると言っても過言ではありません。国内の旅行市場の拡大をどう図っていくのか、ここに力を入れるべきであって、カジノについてはやはりどこかの時点で誘致を断念すべきだという風に考えておりますが、この問題についても、知事に直接お伺いしたいと思いますので、委員長についてはお取り計らいをお願いいたします。</p>	<p>道におきましても、苫小牧市と調査結果を共有するとともに、調査地を基本に、自然環境への影響対策をはじめ、交通アクセスや上下水道といったインフラ整備など、市と連携しながら候補地の特定に向けた検討を幅広く行っているところでございます。</p> <p>(観光局参事 (佐々木)) インバウンドの見通しなどについてでございますが、今般の新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、旅行需要が大幅に減少しており、インバウンドの回復には今しばらく時間を要するものと認識してございます。 道といたしましては、国内外における感染症や各国における需要動向を引き続き、注視するとともに、I R整備のための基本方針の検討状況など、国の動向把握に努めているところでございます。</p> <p>(観光局長) 今後の観光振興の取組についてでございますが、道では、今般の新型コロナウイルス感染症の長期化に伴い、インバウンドの回復には今しばらく時間を要することから、まずは本道の観光需要回復に向け、どうみん割などにより、道内、国内、海外の順に段階的な回復を目指した取組を進めているところでございます。 本格的な人口減少社会の到来により、国内旅行市場の縮小が懸念される中、海外からの観光需要を獲得していく必要があるとの考えのもと、インバウンドも取り込みながら、観光振興に取り組んでいるところでございまして、道といたしましては、国内外における感染症の状況も見極めながら、観光振興に取り組んでまいります。</p> <p>(観光振興監) I Rに関する今後の取組についてでございますが、道では、高齢化や人口減少によりまして、国内旅行市場の縮小が懸念される中、今後の観光振興を図っていくためには、新型コロナウイルス感染症の状況や、中長期的な視点を踏まえまして、新たなインバウンドの取り込み方策を検討しながら、海外からの観光需要を獲得していくことが必要と考えております。 道といたしましては、苫小牧市と連携をいたしまして、自然環境の影響やインフラに関する課題を整理するなど、候補地の特定に向け幅広く検討を行い、事業の継続性や波及効果等も踏まえまして、北海道らしいI Rのコンセプトの構築に向けまして、国の動向を注視しながら、計画的に進めてまいりたいと考えてございます。</p>